

## 平成30年度第4回松山地域協議会会議録

日 時 平成31年3月1日(金) 午後2時～4時10分

場 所 松山農村環境改善センター

出席委員 12名

1号委員 五十嵐 典子 齋藤 吉男 阿部 喜久子 後藤 吉史  
小松 ノリ子 三浦 芳和 佐藤 玲子 小田 和夫  
荘司 邦 村山 安子 佐藤 豊和

3号委員 新館 武

欠席委員 3名

1号委員 平向 與志雄 後藤 俊

2号委員 佐藤 均

酒田市出席者

松山総合支所長兼地域振興課長	遠藤 裕一
建設産業課長	柿崎 弘志
地域振興課長補佐	五十嵐 昭一
地域振興課長補佐	出嶋 亨
建設産業補佐兼建設係長	堀 浩幸
建設産業課長補佐兼産業係長	石川 亮一

傍聴者 5名

## 議事日程

- 1 開 会
- 2 会長あいさつ
- 3 議事録署名人の指名
- 4 議 事

### 【報告事項】

- (1) 平成31年度 松山総合支所当初予算主要事業の概要について

### 【協議事項】

- (1) 平成30年度 松山地域協議会活動報告書（案）について

- 5 その他
- 6 閉 会

## 1 開 会

(遠藤支所長)

○地域協議会開会宣言

○欠席者の確認 平向 與志雄 委員 後藤 俊 委員 佐藤 均 委員

## 2. 会長あいさつ

○平成最後の地域協議会となる。

○新しい年号に相応しい未来が開ければいいと考えている。

○この1年間、日本列島は地震に揺れた年であった。その上、豪雨、日照り等、気象についても非常に揺らいでおり、農家は減益を余儀なくされた。

○国土強靱化もいいが情報をすばやく知って対応していくことが必要な時代である。

○酒田市福祉協議会に出席して話を聞いていると、特に高齢者は自分一人では生きていけない、横のつながりが大切だということを痛感させられた。

○自治会組織に入れぬ世帯がだいぶ増えている。この打開策を考えていかないと地域コミュニティも壊れていく。

○将来、この松山地域をみんなで携えて創っていくことをお願いしたい。

○最後に、本日の案件で新年度予算の主要事業も提示されるので、委員の皆さま方には忌憚のない意見をお伺いし、行政側にはできる範囲の努力を惜しまないようにしていただきたい。

### 3. 議事録署人の選出

(遠藤支所長)

酒田市地域協議会設置条例施行規則第5条第2項及び申し合わせ事項により、三浦 芳和 委員 をお願いする。

また、酒田市地域協議会設置条例第6条第2項の規定により、会議の議長は小田会長にお願いする。

### 4. 議 事

(小田会長)

議事に入ります。まず報告事項「平成31年度 松山総合支所当初予算主要事業の概要について」、事務局から補足説明をお願いします。

(支所長及び建設産業課長)

～資料に基づき説明～

(小田会長)

ご質問、ご意見ありますか。

(佐藤玲委員)

さんさんが無くなれば、森の感謝祭で県知事が来酒した場合、休憩場所はどうするか。

(建設産業課長)

県知事の日程の都合上、式典会場である眺海の森グラウンドゴルフ場を往復するだけになるので、さんさんの方には行かない。

(村山委員)

松山能振興会の補助金3%の減額は、今後3年間ずっとなのか。

(支所長)

今後のことはわからないが、31年度は他の団体補助金も含め一律3%減額になっている。

(村山委員)

松山能振興会は何名で構成されているか。

(後藤吉委員)

人数はすぐにはわからないが、かなり減ってきている。酒田市部課長会（月曜会）からも入ってもらっている。

(新館委員)

①特産品開発について ②松山中学校の活用について それぞれ伺いたい。

(建設産業課長)

①現時点ではこれといった形での特産品は出てきていない。地元産の縛りがきつかったので、もっと地元農家、地元企業で作ったものへと拡げて働きかけていきたい。加工所を利用している方にも声かけして特産品開発の会議に入ってもらっている。

(支所長)

②旧松山中学校は消防の査察で水まわりの配管の不備が指摘され、来年度から閉鎖になる。

(新館委員)

せっかくの施設なのだから有効活用する方策を探してほしい。

(支所長)

貴重な意見として承る。

(小松委員)

災害等不測の事態に備えるための危機管理について重視する必要がある。そのためには日頃の訓練が大切である。主要事業のなかに記載はないが危機管理を考える時代になってきている。

(小田会長)

現在、考えているものはあるか。

(支所長)

昨年も大きな水害があったこともあり、危機管理の重要性は理解している。現在は松山地域4コミセンでそれぞれ避難訓練を行っている。支所でも毎年どこかの地域に入って重点的に活動を

支援している。避難所運営についてはコミ振を中心にお願いしており、それぞれの対応マニュアルを作成している。

(小田会長)

コミュニティセンターでやってみて不自由な点はあるか。

(三浦会長)

内郷地区では、ウイークデーの日中はお年寄りしかいないので訓練にならないことがある。土・日にロープを使った訓練を行ったことはある。

(斎藤吉委員)

山寺地区では、毎年、炊き出しを含め訓練を行っている。

(後藤吉委員)

松嶺地区では、運動会の組単位で行っている。内容は各自治体単位で指定避難場所への避難、コミュニティセンターへの連絡などである。ただ実際に事が起こった場合、特に地震災害の場合などは全員が避難所に来るわけではなく、実際に即した訓練となるとまだまだハードルが高い感じがする。またコミュニティ振興会の役員は自治会長であり、自分の自治会をまず収めてからコミュニティ振興会の役割を担わなければならないなど、実際に機能するまでにはまだまだ時間がかかるものと思っている。実際に災害が起こってみないと情報の出し方などもわからないところがあるので、少しずつステップアップしていきたい。

(支所長)

最近では、どの地域も防災に対する意識が高くなってきていることは感じる。

(小田会長)

危機管理は範囲が広い。訓練できるのは日中であるが、危機はいつ来るのかわからない。いざという時に何をやるのか、また、どういう連絡をとるのか、いろいろな段階がある。乳幼児がいればミルクの買い置きをする、筆筒があれば倒れないような措置をするなど細かいところにも気を配らなければならない。

(後藤吉委員)

関連で、各世帯に避難袋を配布した。各家庭で避難袋に入れるものは違うのだろうが、防災を考えるきっかけにはなった。また、総会時に防災計画を提案し避難計画などの資料も目に見える

形で出している。

(五十嵐委員)

南部地区では、避難訓練を年1回行っている。その他各自治会単位で行っているところもある。

(小田会長)

防災については身近なところから整理していく必要があると考える。予算のこともあるので、新しい年の課題にしたい。

(後藤吉委員)

松山ふるさと会交流促進事業について、市職員と佐々木元町長が行って交流している。住民の参加募集を行っていることは承知しているが、もう少しインパクトのある形で取り組みができないか。東京松山会のメンバーも若返っている中で、佐々木元町長だけでは対応が厳しくなっていると思われる。

(支所長)

東京松山会へのお誘いは地域版広報で行っている。ただ全て自己負担となることから参加も大変なのかと思っている。呼びかけについてはもう少し工夫してみたい。

(後藤吉委員)

これだけ人口が減ってくるとふるさと出身者をこの地域として如何につかまえていくかが地域活動のポイントになると考える。

(佐藤玲委員)

①旧内郷小学校跡地は文化創造施設にするといった話のようだが、自分としては里仁館高校が無くなったときにうまく現在の生涯学習施設に移行したように思っている。内郷地区の住民として旧内郷小学校施設も文化創造施設にスムーズに移行してほしい。また、適切な人材を配して、現在の里仁館のようにいろいろな所から人が来るようにしていただきたい。

②加工所について旧酒田市内からも借りたいといった声があるがあまり知られてないと思われるので借りたい方が簡単に借りられるようにしたら如何か。

(支所長)

①旧内郷小学校跡地については、酒田市全体の文化芸術の拠点として人を呼び込める施設として検討を始めている。この施設の名称は「内郷アートプレイセンター(仮称)」として市長方針に

も盛り込んである。

(三浦委員)

内郷コミセンのスペースについてはそんなに急がなくてもよいので、内郷アートプレイセンター（仮称）の計画を先んじて考えてほしいと要望している。この施設の完成までのタイムスケジュールを提示していただきたいと考えている。

(五十嵐委員)

内郷アートプレイセンター（仮称）と内郷コミセンの管理は別になるのか。

(三浦委員)

そのように市との話し合いを進めている。

(建設産業課長)

②加工所については基本的に誰でも使えることになっている。以前、最初に市街地に加工所を作った際に、だれでも使えるとは言っていたものの加工所のある地区のものといったイメージがあったことは否めない。実際、松山の加工所は酒田市雇用創造協議会と鳥海八幡観光で使ってもらっているといった実績がある。

(佐藤豊委員)

旧松山中学校の閉鎖の前に、松山中学校出身の著名な工藤先生を呼んで講演会を行ってほしい。

(支所長)

現在の旧松山中学校は行政財産になっておらず、行政目的では使えない建物になっているので公式な講演会などでは難しいと思う。地域での盛り上がりが必要ではないか。

(小田会長)

ほかに無いようなので報告事項を終わります。

次に協議事項の「松山地域協議会活動報告書（案）について」事務局より補足説明をお願いします。

(出嶋補佐)

～資料に基づき説明～

(小田会長)

ただいまの説明に対し、ご意見、ご質問はありませんか。

(後藤吉委員)

今回、コミュニティセンターの管理委託について見直したいと担当課から説明を受けた。端的に言うと、かなり合理的な考え方ではあるが、コミュニティセンターを受託している振興会の立場から言わせてもらえば実態とは合わない。合理的に利用実態から積算していくとコミュニティセンターが事務局を形成している部分と合わなくなっており、このままいけば人件費が捻出できない。受託を拒否すればコミュニティセンター閉鎖ということにもなるのでそれもできない。そこで市長報告会への報告書に協議会意見として付け加えていただきたい。

農村環境改善センターとコミュニティセンター似たような性格の部分もあるが、運営の仕方に違いがあってやむを得ないのかなと思いつつ、もう少しすり合わせをしても良いのではないかといい気がする。

(小田会長)

原案と後藤吉委員から出された内容を付け加えたものを市長への報告書としてまとめ、提出してよろしいか。賛成の方の挙手を求めます。

～全員、挙手～

(小田会長)

全員賛成で決しました。

## 5. その他

(村山委員)

松山能振興会のメンバーと演者との関係は同一なのか。どのようなサポートをしているのか。

(後藤吉委員)

松山能振興会か松山能の後援団体。演能団体は松諷社。酒田市からは薪能、大寒能の開催及び後継者育成に対して補助金をいただいている。なお、能の開催は実行委員会を組織して行っており、それを束ねているのが松山能振興会である。

(村山委員)

芸術文化協会松山支部は存続の危機にある。だれも解散を望んでいないが執行部のなり手がいない。今後どのようにしていったらよいか悩んでいる。



(後藤吉委員)

どの団体でも執行部を担う部分は容易でなくなっている。事務局的な部分で何か支援はできないかを考えたとき、芸術文化協会は松山全体のものであるので、ひとつのコミセンで取り扱うのはとてもハードルが高い。

(村山委員)

70歳代が中心なので後継者育成ができない。

(三浦委員)

芸術文化協会松山支部のメンバーは何人いるのか。その中に60歳代はいるのか。

(村山委員)

約100人で60歳代もいる。しかし仕事を持っているので執行部を担ってもらえない。

(三浦委員)

会議は仕事が終わってからの時間でもできるのでは。

(村山委員)

自分が言っているのは本部との意思疎通を図ること。これができないということ。

(三浦委員)

本部との意思疎通は実際に日中動ける人が行ってそれを報告するということができるのでは。

(村山委員)

芸術文化協会の酒田支部と松山支部とは意識が違う。松山では行政に頼るといった意識を未だに変えることができないので大変である。

(三浦委員)

それは工夫次第で何とでもなる。

(小田会長)

松山支部会員の意識の部分については村山委員がそのように感じているだけのこと。意識の共有は我々みな同じである。目的を達成するためにやっていると思えばそのような悩みは無くなるものであると考える。

(村山委員)

松山支部の会員の意識は作品を出せばよいといった考えになっており、裏方の業務については

無頓着である。

(荘司委員)

芸術文化協会松山支部はかつて一度解散して、各構成団体にお金を分配してしまったと聞いている。

(村山委員)

解散ではなく休会である。

(小田会長)

お金を清算して分配すれば、事実上の解散である。

(後藤吉委員)

当時会長であった石川信一さんひとりが背負っていたからこういうことになったと思う。今後のあり方については一度休んでゆっくり考えたら如何か。

(村山委員)

そうすると補助金がつかなくなる。

(小田会長)

それでも補助金を満額もらっているだけいい。砲術隊は3%カットされてしまった。

(村山委員)

協賛金を要請されることが会員の懸念となっており、総会出席者も半数である。

(小田会長)

行政が面倒を見過ぎでかえってだめになってしまったということが結論である。一度原点に立ち返っていただきたい。その他何かあるか。

(荘司委員)

合併後、学校統合やさんさんの休止など松山地域にはいいことが無い。地域活性化が衰退しているように思える。地域協議会も大事ではあるが、市長が地域に来て実際に生の声を聴くというのも大事である。市長と語る会を是非セッティングしてほしい。

(後藤吉委員)

南部と山寺は毎年行っているが松嶺は伝統的にやっていない。市長を呼びたいのであれば、しかるべき場をセッティングすれば来てくれる。

(小田会長)

荘司委員の前段の話で地域に成長がない、みんな尻つぼみになっていることはだれでもわかっている話である。それではどうするかということがこの議題となるものである。ただ要望が全てOKとなるものではない。今回の一律3パーセントの減額も市長自らの給料をカットして今の議会に諮っている。そのことを理解した上で市政運営、住民活動の活性化を図ってもらいたいと思っている。その他、事務局で何かありますか。

(建設産業課長)

- まつやま会館の駐車場が支所の駐車場として管理する。
- 農村環境改善センターは4月から松嶺コミセンに管理をお願いする。
- 2020年客船パシフィックビーナスは来航した際に松山観光を依頼されているので、誘客のための話し合いを来年度になったら行わせていただく。

## 6. 閉 会

(小田会長)

それではこれもちまして第4回松山地域協議会を終了いたします。委員の皆さま方には円滑な議事進行にご協力を賜りありがとうございました。